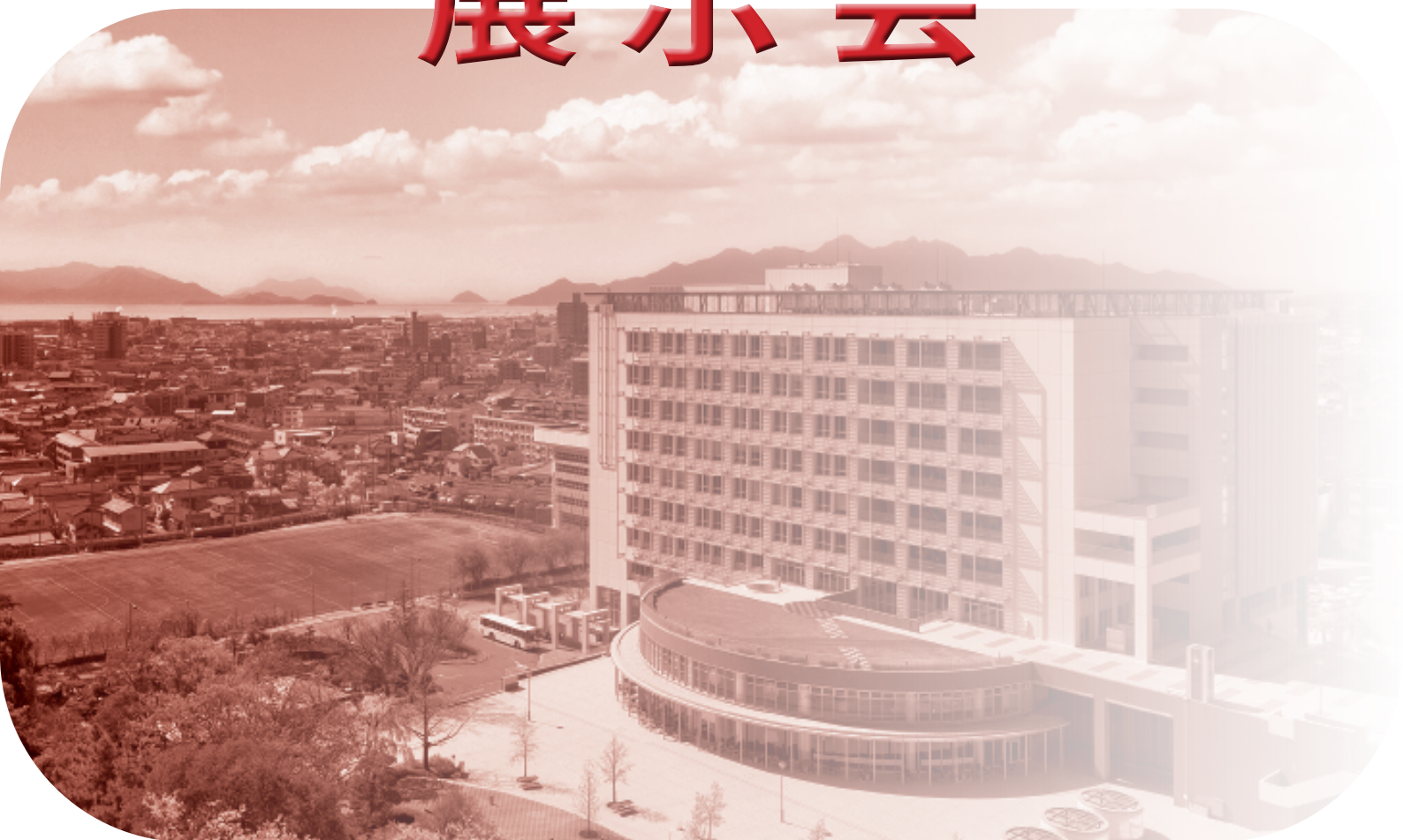


案内書

第77回日本生物工学会大会 附設
機器・試薬・書籍等
展示会



大会会場の「三宅の森 Nexus21」と海側奥に見える「宮島」

期日

2025年9月10日(水)・11日(木)・12日(金)

会場

広島工業大学 五日市キャンパス 三宅の森 Nexus21, 10F
(広島県広島市佐伯区三宅)

●主催

(公社)日本生物工学会

大会実行委員長 黒田 章夫

(広島大学 大学院統合生命科学研究科 教授)

●運営管理/申込先

株式会社 エー・イー企画

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 一ツ橋別館4F

電話 03(3230)2744(代表)



大会開催のご挨拶

各位

謹啓 貴社には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より日本生物工学会の諸事業に格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、第77回日本生物工学会大会は、2025年9月10日（水）から12日（金）の3日間、広島工業大学五日市キャンパスで開催いたします。

日本生物工学会は、産業や社会と密接に関係する産業バイオテクノロジーの学会として、産学連携や交流のあらたな場の提供と充実、産学の人材（若手）育成、産学のニーズの把握などを基本方針に活動を行っている学会です。例年、1500名を超える生物工学関連の研究者が一堂に会し、基礎から応用までの広範な分野にわたる最新の研究成果の発表や企業展示による紹介がなされる活気ある大会となっております。

本大会の初日は、午前より授賞式と受賞講演を行い、午後からは奨励賞の受賞講演に加えて、一般講演やシンポジウムなどの学術講演もはじまります。大会2日目、3日目には、国際シンポジウムをはじめ、様々な企画シンポジウムおよび一般講演を計画しております。一般講演は、全て口頭発表形式で実施します。昼食の時間帯には、「ランチョンセミナー」の開催を例年通り計画しております。また、大会懇親会は、初日の夕方にJR広島駅直結のホテルグランヴィア広島にて開催します。

会場の広島工業大学五日市キャンパスへは、JR五日市駅からバスで15分程度です。バスの増便も予定しており、ご不便なく会場にアクセスできるようにいたします。広島工業大学五日市キャンパスには10階建てのNexus21があり、展示会のみならず、授賞式からすべての講演を同一の建物内で行うため、講演の合間を利用した参加者の来訪が期待できます。

日本生物工学会年次大会の開催費は、会員の参加費などで賄うのが本旨ではございますが、昨今の社会情勢などにより開催費の逼迫が予想されます。そこで本研究分野の振興と発展に多大なるご理解を賜っております諸企業ならびに機関に格別のご援助をお願いする次第です。是非とも、本大会への協賛をお願い申し上げます。

なお、展示運營業務に関しては株式会社エー・イー企画に委託しております。お問合わせ・お申込みは同社宛に直接ご下命くださいますようお願い申し上げます。

謹白

令和6年9月

第77回日本生物工学会大会

実行委員長 黒田 章夫

(広島大学 大学院統合生命科学研究科 教授)



前回2024年大会シンポジウム課題は下記の通りです (出展の参考にして下さい)

① 生命の再設計による自然を超越するバイオテクノロジーの創出を目指して

▶オーガナイザー：青木航(阪大), 橋本 講司(東大)

現生生命は、私たちにさまざまな革新的バイオテクノロジーを与えてくれた。一方、現生生命を足場として利用する場合、そのブループリントに従わなければならないという制約が不可避免的に生じる。本シンポジウムでは、生命・生命現象の再設計と応用に挑戦する試みの最先端を議論し、それにより生み出される自然を超越するバイオテクノロジーの可能性を探る。

② 未来の食とバイオものづくりを牽引するPrecision fermentation

▶オーガナイザー：小川順(京大), 長森英二(大阪工大), 矢田美恵子(バイオインダストリー協会)

地球環境や世界情勢の変化を背景に、未来の食の選択肢が多様化してきている。海外では、Precision fermentationが注目され、ベンチャー企業が数多く生まれている。Precision fermentationを国内に根付かせるには、安全性や「表示」問題の解決が必須である。一方、糸状菌や麹菌で作る非組換えでのタンパク質生産は日本の強みであり、スタートアップも誕生している。こうした食料問題と対峙し、かつ、バイオものづくりを牽引しうる取組の現状と課題を議論したい。

③ 酒造りの新潮流 ～野生酵母, 新滅菌技術など～

▶オーガナイザー：尾仲 宏康(学習院大)

醸造分野では20世紀後半以降科学的知見が積極的に導入された結果、従来からの酒造行程が見直され、お酒の高品質化が進んでいる。そして、最近では科学的知見に裏付けされた新しいお酒の創出も盛んである。本シンポジウムでは野生酵母を使った日本酒、ワイン、ビールを使った新しい醸造、高圧処理を用いた新滅菌手法など、最新の学術的知見、醸造トレンドについて、産学官より様々な立場の演者を迎えて紹介したい。

④ 次世代のバイオ産業を支える人材育成システムと産学連携の課題と展望 【本部企画】

▶オーガナイザー：小西 正朗(北見工大)

微生物を生体触媒とするバイオものづくりは次世代産業システムのコア技術として注目されている。発展が目覚ましい高度な分子生物学的育種、解析技術など高度かつ分野横断的な技術を取り入れつつ、効率のかつ経済的、工業的な微生物培養によりものづくりを達成するためには、先端の技術開発と同時に人材育成が重要となる。本シンポジウムでは、国内外の産学連携例、バイオスタートアップの研究開発例を取り上げ、研究開発と人材育成に関する課題と展望について議論する。

⑤ 社会課題解決に向けたバイオものづくりの現状と今後の展望 【本部企画】

▶オーガナイザー：安原貴臣(アサヒクオリティアーンドイノベーションズ)

気候変動に代表される社会課題は年々顕在化している。一方、社会課題解決に資するバイオや生成AI分野での技術進化は目覚ましいものがあり、国家規模での技術開発支援が成されている。この様な背景の下、「バイオものづくり」の領域における第一人者を産学官からお招きし、現状、課題、これからの展望について議論し、社会課題解決へのイノベーション創出の一助としたい。

⑥ 発酵・醸造のサステナビリティ 【本部企画】

▶オーガナイザー：中村 彰宏(三和酒類)

近年の食の西欧化、若者の酒離れや、少子高齢化による後継者不足など発酵・醸造を取り巻く環境が変化している。発酵食品を造る・楽しむという価値を見直し、後世に残すための「持続性」について、産官学の第一人者をお招きし、現状と課題について議論し、その認識を深め、日本の発酵・醸造の技術の伝承と新たな展開の一助としたい。

⑦ グリーントランスフォーメーションをひらく微生物バイオテクノロジーの最前線

▶オーガナイザー：本田 孝祐(阪大), 二井手 哲平(阪大)

本シンポジウムでは、バイオものづくりによるGX(グリーントランスフォーメーション)の実現に焦点を当てる。当該技術分野は、温室効果ガス削減とバイオエコノミー拡大の両方を追求できる重要な領域であり、成果の社会実装を加速すべく、2023年にJST GteX バイオものづくり領域が立ち上げられた。シンポジウムでは、同領域の微生物中核チームが進める技術開発研究の一端を、若手研究者が中心となり紹介する。特に、機能強化ベーシックセルの開発研究、有用微生物の探索と機能開拓、次世代DBTLの開発の3テーマについての講演を企画する。

共催：JST 革新的GX技術創出事業 (GteX)・バイオものづくり領域・微生物中核チーム

⑧ データ駆動型バイオツールの新展開

▶オーガナイザー：座古 保(愛媛大), 山口 哲志(阪大), 神谷 典穂(九大)

データサイエンスの発展に伴い、データ駆動型のバイオテクノロジーの勃興が著しい。このような潮流において、AIを駆使した認識や分類、最適化が、生物学におけるセンシングや品質管理、分子開発などに広く用いられ、従来技術の課題を解決する成果を示し始めている。今回のシンポジウムでは、このようなデータ駆動型のアプローチで行われている先端研究に焦点をあて、創出された技術(バイオツール)について討論を行いたい。

⑨ 日本分析機器工業会(JAIMA) 会員企業との共働による生物工学の自動化の革新

▶オーガナイザー：松田 史生(阪大), 内山 進(阪大), 馬場 健史(九大)

近年、最先端のバイオテクノロジーは高性能化された革新的研究機器、技術のもとで生み出されているが、さらなる革新には自動化領域の深化、拡大、低価格化への期待も大きい。日本生物工学会バイオ計測サイエンス研究部会は学会本部と連携し、日本分析機器工業会(JAIMA) 会員企業と連携した産学連携の取り組みを行ってきた。その中で喫緊の課題として浮かび上がってきた、バイオテクノロジーのDXにおいて必要とされる自動化の革新ニーズを掘り起こし、日本分析機器工業会(JAIMA) 会員企業のシーズと結びつけるための企画を、共働企画として実施したい。

⑩ 自然共生に学ぶ生物工学研究

▶オーガナイザー：岡澤 敦司(大阪公大), 田丸 浩(三重大)

人類の活動が環境に大きな影響を与えることが明らかになり、持続可能な社会の存続が危ぶまれている。生物学においても現状の地球課題を明瞭に意識し、自然共生を基盤とする研究への展開が緊急に求められる。このシンポジウムでは、自然共生・生物間相互作用研究を生物学に展開する事例を紹介し、参加者と今後の生物学のあり方を議論する。

⑪ プラスチックリサイクルの未来を拓く：酵素と微生物による循環型社会への挑戦 《国際シンポジウム》

▶オーガナイザー：細川 正人(早稲田大), 吉田 昭介(奈良先端大)

本シンポジウムでは、PETなどのプラスチックを分解する酵素や微生物の研究を通じて、リサイクルと循環型社会の実現に向けた新たな展望を探索する。持続可能な開発目標(SDGs)に寄与し、地球規模での環境問題への対応を目指す当研究分野は、国際的な協力とイノベーションが不可欠である。本シンポジウムは、国際的な研究者を招聘し、最新の知見を共有することで、この新領域の開拓を促進します。

今大会シンポジウム課題は2025年3月に 大会HPよりご覧ください

⑬ 高付加価値物質生産”セルファクトリー”の設計戦略

▶オーガナイザー：中山 亨（東北大）、中島田 豊（広島大）

二酸化炭素を含む様々な原料から付加価値の高いバイオ生産物を高収率化できれば、カーボンニュートラルに資する環境低負荷型生産が可能となるとともに、高収益かつ競争力の高いバイオインダストリー産業への発展につながる。そこで、本シンポジウムでは、一般社団法人バイオインダストリー協会新資源生物変換研究会との協賛により、抗生物質やカロテノイド類など様々な高付加価値物質の生合成研究の最前線を紹介すると共に、多様化する原料に対応した”セルファクトリー設計工学”の創成・深化につながる議論の場としたい。

⑭ みんなに知ってほしいバイオサーファクタントの魅力

▶オーガナイザー：森田 友岳（産総研）

バイオサーファクタントは、バイオマスを原料として微生物が作る界面活性剤であり、多彩でユニークな機能発揮することから高機能バイオベース素材としての研究・開発が進められています。本シンポジウムでは、バイオサーファクタントの生産から応用まで幅広い研究事例に加え、昨年度から開始した産学官連携による取り組みを紹介し、日本が先導してきたバイオ素材の魅力と可能性を会員の皆さまに知って頂きたい。

⑮ 炭素資源循環に向けたバイオの挑戦

▶オーガナイザー：杉森 大助（福島大）

喫緊の課題である炭素資源循環にバイオでどう立ち向かうのか、プラスチックの微生物分解、生分解性プラスチック合成等のリサイクル/アップサイクルに関連する研究をリードする研究者に登壇いただき、最新の研究成果を紹介するとともに、現状の課題と社会実装への可能性等について議論する場を提供する。

⑯ 基礎教育奨励項目改訂 ～生物工学人材育成の道しるべ～ 【本部企画】

▶オーガナイザー：川瀬 雅也（長浜バイオ大）、石井 正治（東大）

日本生物工学会では、平成28年に基礎教育奨励項目を提示している。一方、平成30年告示として高等学校学習指導要領の改訂が行われ実施されている。本学会教育委員会では同項目を改訂する必要性を認識し、改訂を進めている。そこで、生物工学人材育成の道しるべとも言える同項目について、その歴史を振り返るとともに、改訂の工程に関してつぶさにお知らせすることで、同項目の重要性を改めてご認識いただくことと、学会員との議論の場を作り、より現状に即した項目を探ることを、本シンポジウム開催の趣旨としている。

⑰ ゲテモノ食環境微生物は何を食べるのか？～水処理技術のこれまでとこの先～

▶オーガナイザー：前田 憲成（九工大）、加藤 雄大（清水建設）、栗栖 太（東大）

重金属や有機化学物質汚染が深刻な問題となり、対象物質を分解・除去できる有用微生物の単離・機能解析に関する研究が進化した。我々にとってゲテモノとも思える物質でも、環境微生物にとっては普通の物質なのかもしれない。本シンポジウムでは、環境中や水処理など、複合環境中の微生物群集のなかで、特定の機能を行う微生物の解析法の現状や、研究結果を活用した処理技術の紹介、現場において解決すべき課題を議論するとともに、新たな解析手法が創る未来の処理技術を議論する場としたい。

⑱ 合成生物学国際学生コンテストiGEMによる人材育成

▶オーガナイザー：木賀 大介（早稲田大）、末次正幸（立教大）、田川 陽一（東工大）

iGEMは学部生を中心とする世界的な合成生物学コンテストである。日本からも10を超える大学がこれまでiGEMに参加し、世界では毎年400以上のチーム、5000人以上が参加する巨大なコミュニティとなった。「世界レベルの学生との交流」および「生物工学で社会問題を解決する起業家精神の醸成」の刺激を受けた学生がその後各所で活躍している。本シンポジウムでは、iGEMの20年を振り返り、今後の博士人材育成および創出に向けたヒントを探る議論を行いたい。

⑳-1 KSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム

第一部：未来を拓く：エンジニアリング・バイオロジーの進歩 【本部企画】《国際シンポジウム》

▶オーガナイザー：中野 秀雄（名大）、竹山 春子（早稲田大）、田中 祐圭（東工大）、細川 正人（早稲田大）

本シンポジウムは、エンジニアリング・バイオロジーの分野における最先端の研究とブレークスルー技術を掘り下げるものである。韓国・台湾・日本の著名な専門家や研究者がバイオテクノロジーの最前線の研究から、合成生物学や遺伝子工学などにおける最新のイノベーションについて議論する。参加者は、ヘルスケアから持続可能な農業まで、様々な産業において生物工学がもたらす変革の可能性と、それが科学的発見の未来をどのように形作るのかについて見識を深めることが期待できる。

⑳-2 KSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム

第二部：次世代の波をつくる：エンジニアリング・バイオロジーの若きイノベーターたち 【本部企画】《国際シンポジウム》

▶オーガナイザー：中野 秀雄（名大）、竹山 春子（早稲田大）、田中 祐圭（東工大）、細川 正人（早稲田大）

本シンポジウムは、バイオテクノロジー分野の若手リーダーや新進気鋭の才能に焦点を当て、次世代の研究者の革新的な貢献を紹介するものである。若手イノベーターが主導する新鮮な視点、斬新なアプローチ、有望なプロジェクトに焦点を当て、プレゼンテーションとディスカッションを行う。若い才能の成長と、バイオテクノロジーの未来を形作る上で極めて重要な役割を担う彼らの育成を目指し、ネットワークングとコラボレーションのためのプラットフォームを提供する。

㉑ 未培養微生物（微生物ダークマター）研究のフロンティア

▶オーガナイザー：青柳 秀紀（筑波大）、堀之内 貴明（産総研）、今井 優（信州大）

自然界の微生物の99%以上は培養化されておらず、未利用のまま存在している。これらの解明や利活用ができれば、医薬、環境、発酵、食品など様々な分野で多大な貢献ができ、今後の生物学分野の発展の鍵となる。本シンポジウムでは、未培養微生物の開拓、機能解明、利用につながる様々な分野の最先端の研究者を学会内外より招聘し、研究成果の紹介を行う。パネルディスカッションでは、海外で自動化等による大規模研究が展開されている状況に対して我が国がどう立ち向かわべきかについても議論する。

㉒ 嗅覚のしくみと臭気センシング技術

▶オーガナイザー：福谷 洋介（農工大）、大河内 美奈（東工大）

生物は環境中の多種多様な匂い物質を検知し、そのわずかな変化を捉えて行動をとる。本シンポジウムでは、「嗅覚の仕組みと臭気センシング技術」と題し、生物の嗅覚のしくみについて概説した後、嗅覚受容体の発現機能の制御、さらには匂いセンサの開発や関連技術に関する近年の取り組みについて、異分野の研究者らが集って情報交換し、産業展開に向けた研究開発を進める。

㉓ 食料安全保障を見据えたフードロス削減とアップサイクルを実現するためのFood Tech学際研究

▶オーガナイザー：福崎 英一郎（阪大）

日本は、食料調達における環境負荷は高く（フードマイレージ9000億・Km）、自給率が低い（40%）にも関わらず、フードロスが年間500万トンを超え、SDGsや食料安全保障に関わる脆弱性が問題視されている。本シンポジウムでは、エレクトロニクスとバイオ技術の統合によりフードロスを減らし、廃棄食品を再利用する方法を提案する。また、新技術の社会実装に向けた社会受容についても議論する予定である。

㉔ 博士人材のためのキャリアパスシンポジウム～博士をとった後に待つ未来～ 【生物工学若手研究者の集い】

▶オーガナイザー：蟹江 慧（近大）、曾宮 正晴（阪大）、三浦 夏子（大阪公大）、橋本 講司（東大）、谷口 百優（島津製作所）

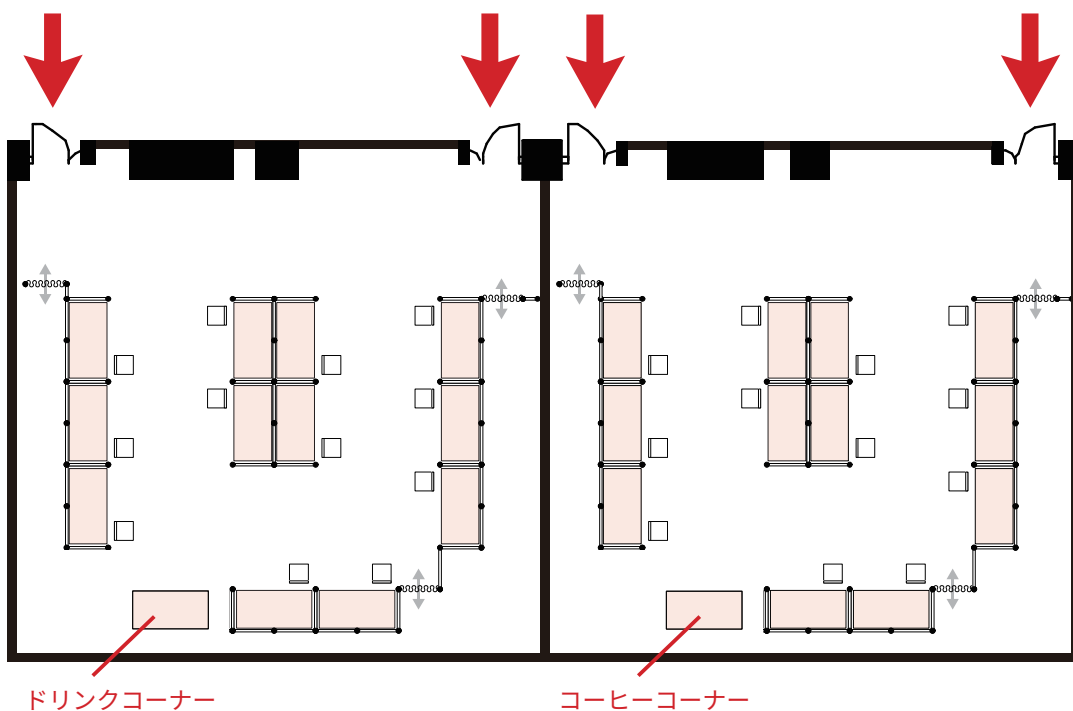
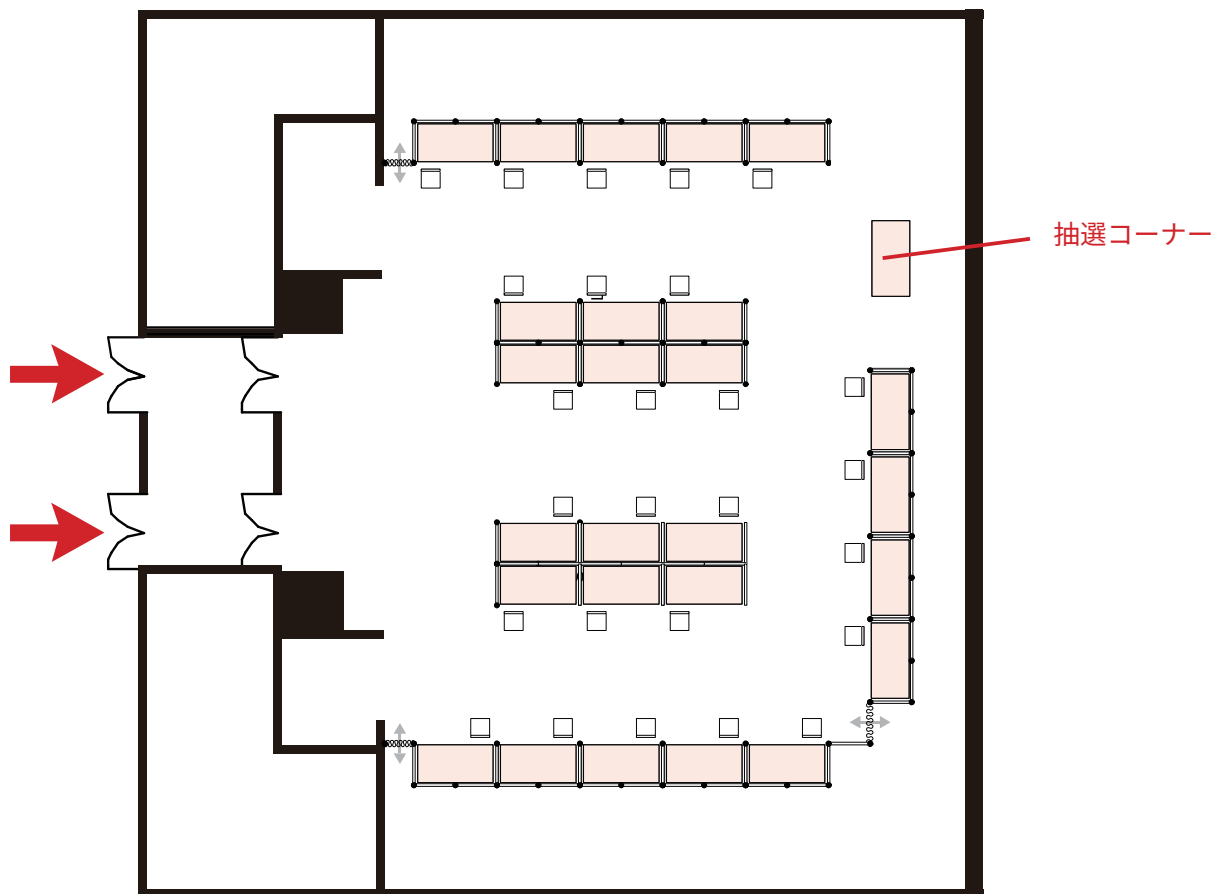
学生や若手研究者などの博士人材が明確なキャリアパスを思い描くためには、先達のキャリアパスを知ることが大きな助けとなる。しかし、そのような情報に触れる機会はいまだ少ないのが現状である。本シンポジウムでは、さまざまな領域で活躍中の博士人材や博士学生に登壇していただき、キャリアパスを考える上での障壁やその解決案、活躍の場の共有を行うことで、学生や若手研究者が将来を楽しく思い描くための一助として考えている。

今大会シンポジウム課題は2025年3月に
大会HPよりご覧ください



展示会場小間割図 (予定)

(広島工業大学 五日市キャンパス 三宅の森 Nexus21, 10F)





出品要綱

会期

2025年 9月10日(水) 10:00～17:30

9月11日(木) 9:00～17:30

9月12日(金) 9:00～14:00

※予定です。

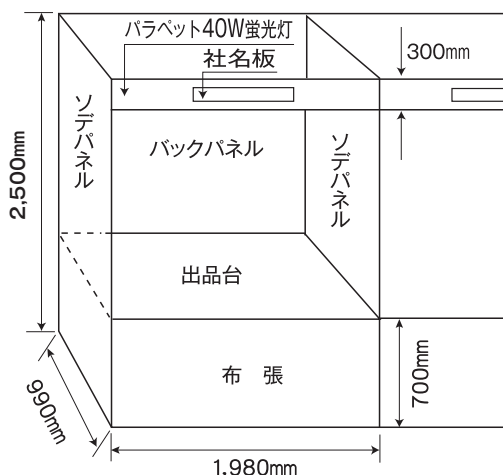
会場

広島工業大学 五日市キャンパス 三宅の森 Nexus21, 10F

(広島県広島市佐伯区三宅)

小間規格と出品料金

◆ Aタイプ(機器・試薬等)



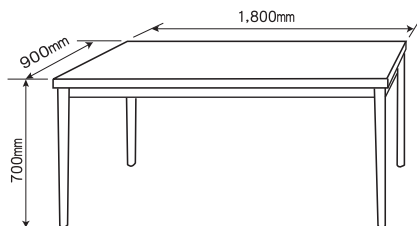
1次申込料金 : **220,000円** (税込)

2次申込料金 : **253,000円** (税込)

- ◎ 小間サイズ : W1,980×D990×H2,500mm
- ◎ セット内容 : バックパネル(蛍光灯40W、社名板付)、イス1脚、出品台(W1,800×D900×H700mm、白布にて台上を覆い、腰は青色系の布で覆います)
- ◎ システムパネル(オクタノルム式)を使用(白系ビニールコーティング合板システム)釘打ち、穴あけ、ピン等の取付け、表具等の加工はできません。パネル等の取付けは、専用チェーンにてお願い致します。
- ◎ パネルの色変更は、カッティングシートにて可能です。事前にご連絡ください。

◎1小間当たり1名懇親会に招待いたします。

◆ Bタイプ(書店、出版社のみ)



1次申込料金 : **33,000円** (税込)

2次申込料金 : **55,000円** (税込)

- ◎ 小間サイズ : 出品台のみ
- ◎ セット内容 : 出品台(W1,800×D900×H700mm、白布にて台上を覆い、腰は青色系の布で覆います)社名板付、折りたたみイス1脚

電力料金

電力を使用する場合は、申込が必要です。展示申込フォームへご入力の上お申し込みください。

申込締切日

1次申込締切日 2025年 3月 31日(月)

2次申込締切日 2025年 6月 30日(月)

出品申込方法

- (1) 申込方法 大会HPまたは以下URLの申込フォームよりお申込みください。
<https://aeplan.jp/sbj2025ex>
- (2) お問い合わせ **株式会社 エー・イー企画**
第77回日本生物工学会大会展示会係 担当：関根一成
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 一ツ橋別館4F
電話 03-3230-2744(代表) FAX 03-3230-2479
E-mail：sbj2025@aeplan.co.jp
- (3) 振込銀行 申込受理後に請求書をお送りいたします。

小間の割当て

出品申込みを受付後、出品物の種類・形状・重量・小間数などを考慮の上、出品者にご通知申し上げます。出品者説明会は行いませんのでご了承ください。

出品物の管理

各出品物の管理は出品者が責任をもつものとし、展示期間中の出品物の盗難・紛失・火災・損傷など、不可抗力による出品物の損害に対して、補償などの責任は一切負いませんのでご了承ください。

キャンセルポリシー

申込みの際は下記ポリシーにご同意いただいたうえでお申込みください。申込み受理後は、主催者が不可抗力と認めた事故以外は原則解約することはできません。主催者が解約を認めた場合でも、解約理由を書面にてお送りいただき、受領した日を基準として解約料金をお支払いください。

※解約料金

- 申込み締切日以前に受領した場合…請求額の50%をお支払いください。
- 申込み締切日以後に受領した場合…請求額の全額をお支払いください。
- 天災・その他のやむを得ない事情、並びに主催者の責任に帰し得ない原因により、大会および展示会等の開催を変更・中止する場合があります。この変更により生じた協賛各社の損害は補償できかねます。
- 前述の原因により開催中止を決定した場合には、主催者は協賛各社に対し、会期前に納入された協賛費から準備費用を除いた金額を算出し、ご返金致します。

情報公開

拠出いただきました協賛金につきましては、各社が公表することに同意します。

出品物の搬入・搬出

細部につきましては、後日出品者にご通知申し上げます。

搬入	2025年9月 9日(火)	14:00～18:00まで
搬出	2025年9月12日(金)	14:00より



会場案内図

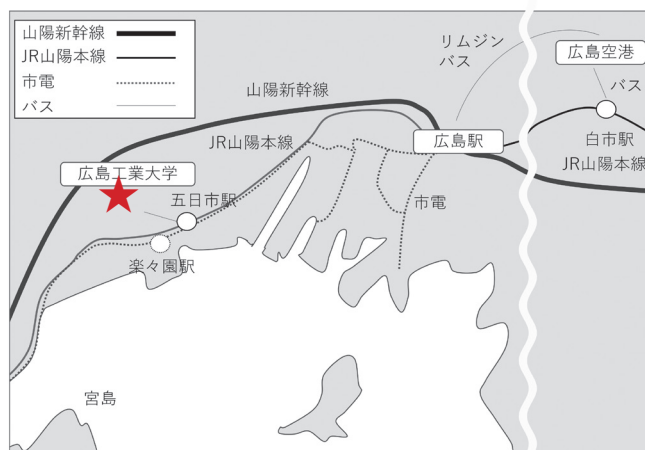
広島工業大学 五日市キャンパス

〒731-5143 広島県広島市佐伯区三宅2丁目1-1-1

講演会場
展示会場
三宅の森 Nexus21, 10F



広島工業大学へのアクセス



広島空港から大会会場へのアクセス

■ リムジンバス 広島駅新幹線口行き

空港ターミナルビル1階到着フロア2番ホームより乗車(約50分)、広島駅新幹線口終点下車、JR広島駅から会場へのアクセス方法は下記をご覧ください。

■ 芸陽バス「白市駅～広島空港線」

空港ターミナルビル1階到着フロア4番ホームより乗車(約15分)、「JR白市駅」から山陽本線下り(岩国方面)「JR五日市駅」下車(約70分)、JR五日市駅から会場へのアクセス方法は下記をご覧ください。

JR 広島駅から大会会場へのアクセス

JR山陽本線下り(岩国方面)に乗り換え、「JR五日市駅」下車(約15分)

■ JR五日市駅から会場入口への直通臨時バス(約10分)

大会期間中五日市駅南口発を予定、朝と夕方は増便予定(前日の搬入日はございません)

■ JR五日市駅からの路線バス(約15分)

JR五日市駅南口発「楽々園」經由「東観音台団地」「湯来温泉」方面行き(路線番号3-5,4-1,4-2)に乗車、「広島工大入口」下車、徒歩3分

■ 宮島線「五日市駅」から「広電宮島口」方面行きに乗車、「楽々園」下車、徒歩15分

■ タクシー

約10分、約900円

JR広島駅から市内電車宮島線「広電宮島口」方面行きに乗車できますが、「楽々園」までの所要時間は約1時間です。広島駅からはJRにて五日市駅までお越し頂くことをお勧めします。